



第6期奥多摩町長期総合計画の詳細は、計画書本編、
または「奥多摩町公式ホームページ」をご覧ください。

OKUTAMA Re: design



わたしがつくる、
わたしたちの奥多摩へ

計画策定アドバイザー

多摩大学総合研究所 所長：松本祐一

客員研究員：丸谷晴道

客員研究員：豊田幸子

制作

クリエイティブディレクション：曾田夕紀子（株式会社ミゲル）

アートディレクション・デザイン：根本真路

イラストレーション：五味健悟

写真：山口まり子

令和7年3月

発行者：奥多摩町

〒198-0212 東京都西多摩郡奥多摩町氷川215番地6

編集：奥多摩町企画財政課

電話：0428-83-2111（代表）

OKUTAMA

この町をリデザインしよう、
わたしたち一人ひとりの力で。

長期総合計画とは、奥多摩町の未来をみんなで作るための設計図のことです。

10年先の奥多摩町の未来を見据え、まちづくりを進めていくために、第6期奥多摩町長期総合計画が策定されました。

とはいえ、すべてを一新する訳ではありません。豊かな自然、貴重な人材、多彩な文化や資源など…。この町に根付く価値あるものに改めて目を向け、それらを最大限活用しながら、より良い未来に向かって新たなリソースやアイデアを取り入れていく——。そんなまちづくりの姿勢が、「OKUTAMA Re: design(リデザイン=再設計する)」というタイトルに込められています。

わたしがつくる、 わたしたちの奥多摩へ

長期総合計画における主人公は、まちの未来をつくる大切な一人ひとり＝「わたし」。まちの将来像を実現していくためには、行政だけでなく、住民一人ひとり何ができるのか考え、一丸となってまちづくりを進めていくことが重要なのです。

リデザインされた「未来の設計図」を道標に、一人ひとりの「わたし」がまちづくりの一員として暮らしていく。そうすれば、「わたしたち」の町はきっとより良い未来へと進んでいくはずです。

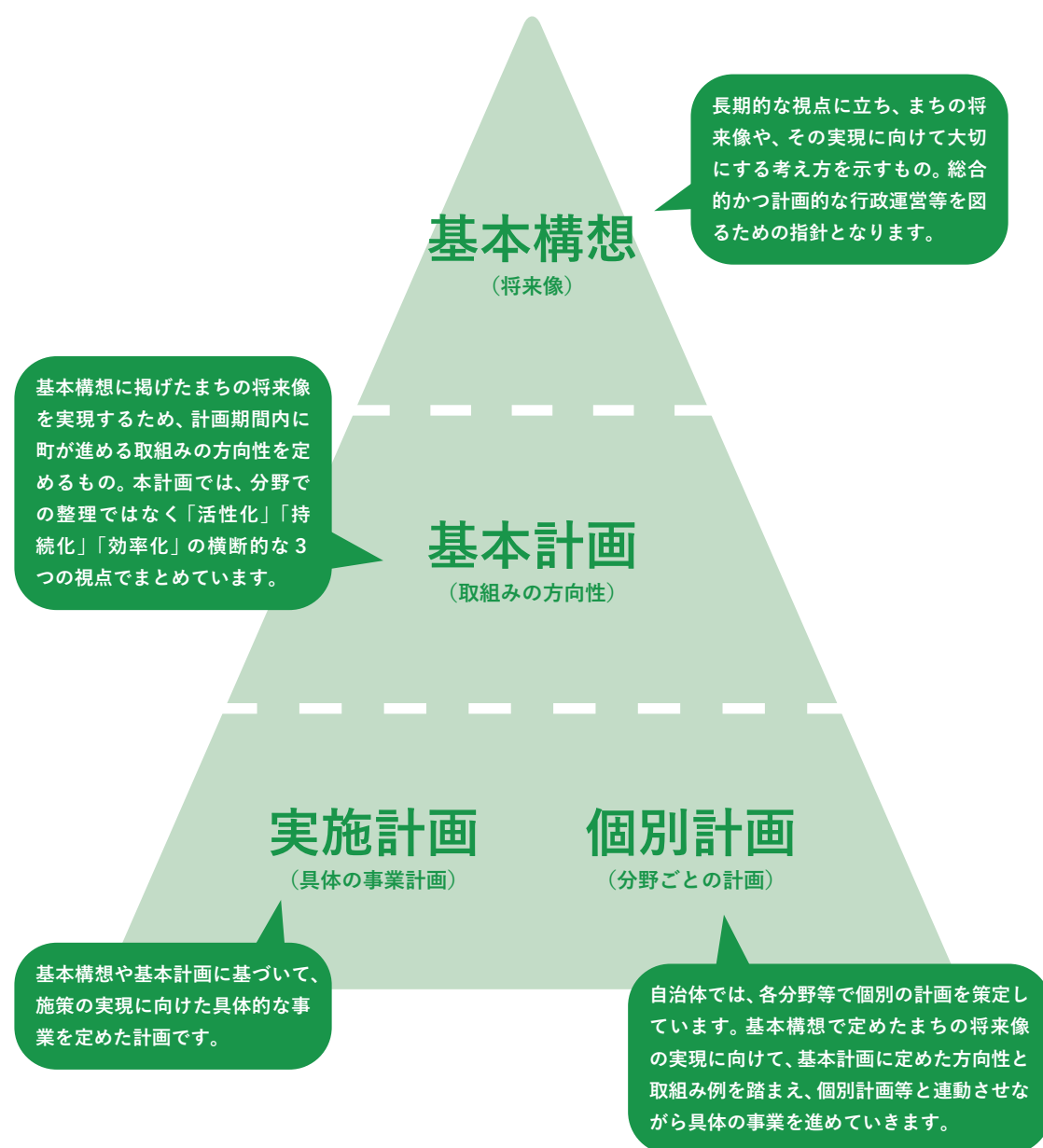
「みんな」「一人ひとり」とは

大人も子どもも障害のある人もない人も性別や年齢、国籍など関係なく奥多摩町で暮らしたり働いたり過したりしている人、一人ひとりを言います。一人ひとりの心に芽生えた「奥多摩町が好き」を胸に、みんなで奥多摩町をつくっていきます。

Re: design

What is “長期総合計画”？

まちの未来の設計図となる長期総合計画は、基本構想と基本計画からなる最上位計画です。
それぞれの分野で策定する個別計画は、基本構想に掲げる将来像の実現のため、
基本計画で示す方向性に基づき推進していくものとなります。



第6期長期総合計画の特徴

“住民協創型”という初めてのやり方で策定されたのが、第6期奥多摩町長期総合計画です。

通常の計画策定では、行政側でたたき台を作成し、それを基に進めていくケースがほとんどです。

しかし、人口が約4,500人である奥多摩町だからこそ、きめ細かく住民等の声を聞き、その意見を中心に据えて計画を策定した方がいいのではないか——そんな考えから「住民等との協創」を重要なテーマに掲げ、まちづくり住民アンケート、住民参加ワークショップで出た意見やキーワードなどを基に計画づくりを行う、今までにない住民協創型の策定方法が実施されました。

第6期奥多摩町長期総合計画とは、まさに一人ひとりの“わたし”の意見によって作られたものなのです。

第6期奥多摩町長期総合計画は、令和7年度から令和16年度の10年間となります。

まちの将来像

自然の中でわたしが くらしつながら 挑戦できる おくたま

奥多摩町は自然豊かで、人口規模は約4,500人と一人ひとりの顔が見えるまちです。奥多摩らしさを活かしながら、「一人ひとり」を大切に、想いをもってまちづくりを進めていきます。

「豊かな自然」を大切にします

全域が秩父多摩甲斐国立公園という恵まれた環境であることに向き合い、自然と共生し、観光資源を大切にできるまち

「わたし」＝「一人ひとり」を大切にします

年齢や性別、国籍などにとらわれず、一人ひとりの個性が光るまち

「くらしやすさ」を大切にします

今あるものに魅力と安らぎを感じ、暮らしてみたい、暮らし続けたいと思えるまち

「町内外のつながり」を大切にします

奥多摩ならではの顔が見えるつながりと、奥多摩に関わる多様な人との絆を大切にできるまち

「挑戦」と「学び」を大切にします

歴史あるものから学びながら新しい物事に挑戦できるまち

わたしたちが 大事にする姿勢

5つの姿勢を大切にし、奥多摩町の目指す将来像を実現するため「わたし」たち一人ひとりが取り組んでいきます。

未来をつくる3つのコンセプト

本計画では、分野での整理ではなく、横断的な視点で「活性化」「持続化」「効率化」の3つのコンセプトから計画をまとめています。

活性化

未来をつくるためには、積極的に新たなものを創造すること、そして、何よりそのために失敗を恐れず挑戦することが重要です。

持続化

まちづくりには過去や歴史からの連続性も必要で、今あるものを大事に守りながら、新たな光をあてることで、継続することも大事です。

効率化

限りある資源を活用し、新たなことに挑戦するためには、時には勇気をもってやめたり、縮小したりすることも重要で、整理・統合することで無駄をはぶくことにもつながります。

CONCEPT

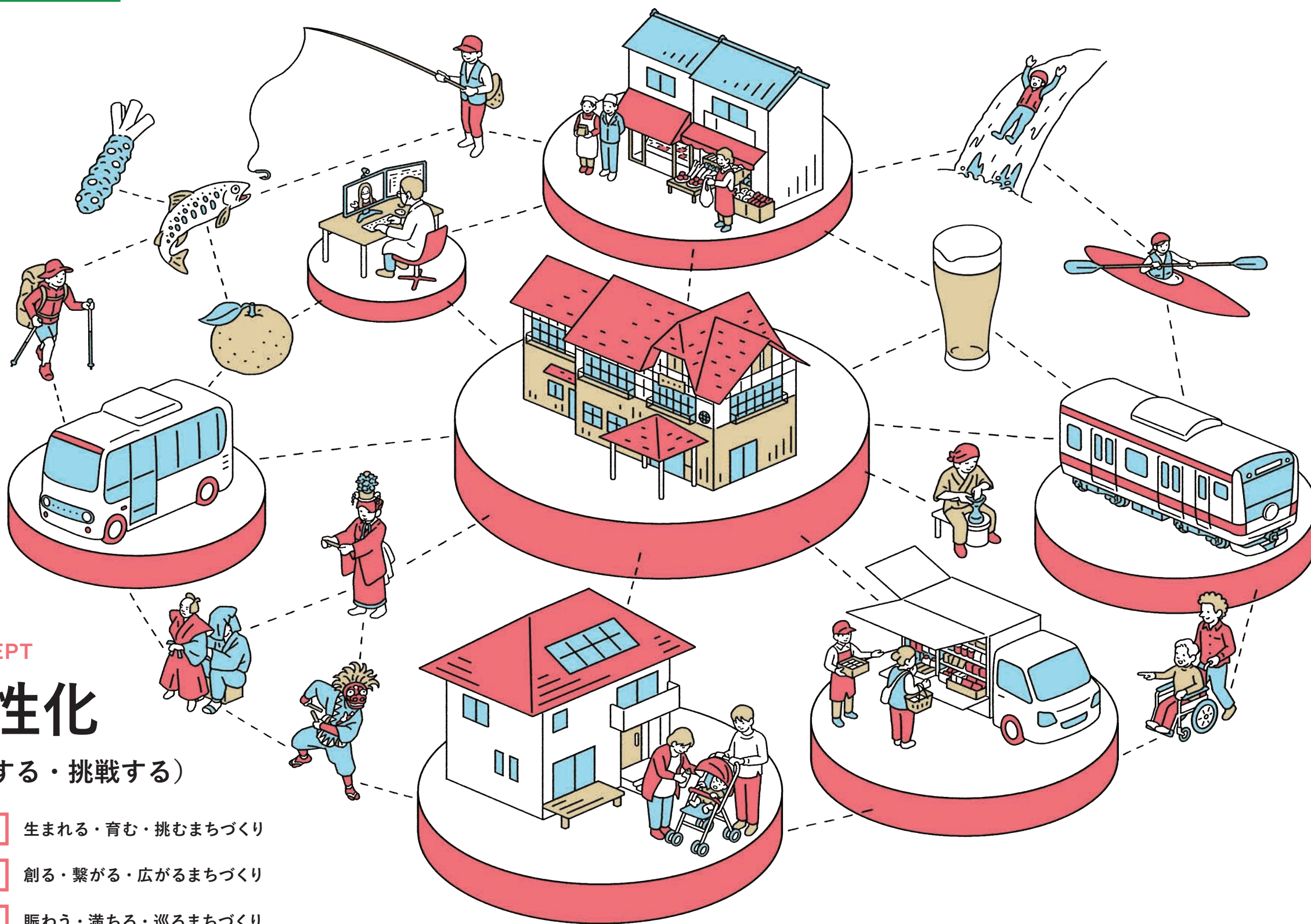
活性化

(創造する・挑戦する)

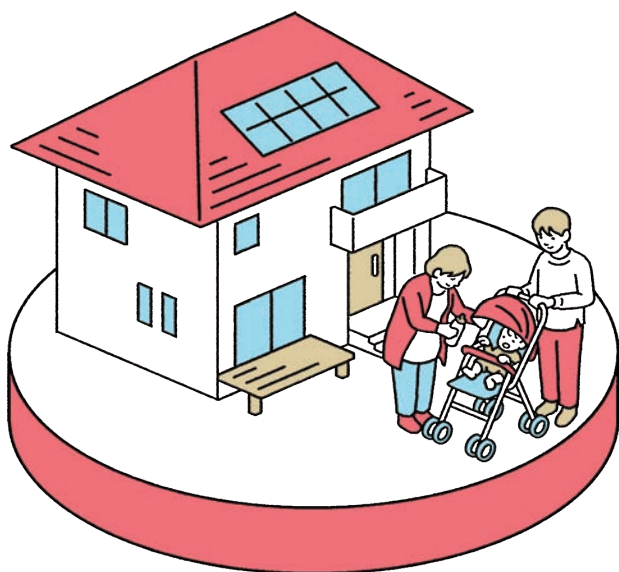
将来像 1 生まれる・育む・挑むまちづくり

将来像 2 創る・繋がる・広がるまちづくり

将来像 3 賑わう・満ちる・巡るまちづくり



将来像
1



生まれる・育む・挑む まちづくり

安心して妊娠・出産・子育てができ、将来を担う子どもたちが自然豊かな環境の中でのびのびと健康に育つことができるまちづくりを進めていきます。様々な機会を活かし、誰もが挑戦できる環境を整えます。起業や創業支援、町の観光資源の開発なども進めていきます。デジタル化を進めることで、人口減少や地域特性などに対応できるよう病院のウェブ診療や各種申し込みなどを遠隔で行える環境の整備を検討します。

また、農業・林業・観光等を含んだ産業振興計画の策定を検討し、奥多摩町ならではの課を横断した一体的なまちづくりを進めていきます。

将来像
1

施策の方向性

1 子育て推進

取組み例

- 妊娠期から子育て期の一体的な支援
- 情報発信の充実（子ども・子育てに特化したホームページの作成など）
- 各種助成事業の充実
- 放課後こども教室（わさびーひろば）の充実 等

2 起業の支援

取組み例

- 誰でも起業できる環境の整備
- 起業促進・新規事業支援
- 創業支援の推進
- 拠点としての空き家活用 等

3 観光資源の開発

取組み例

- 新たな観光スポットの発掘
- 新たな特産品の開発・開発支援の充実
- インバウンドを想定した観光資源の開発と環境の整備 等

4 デジタル化の推進

取組み例

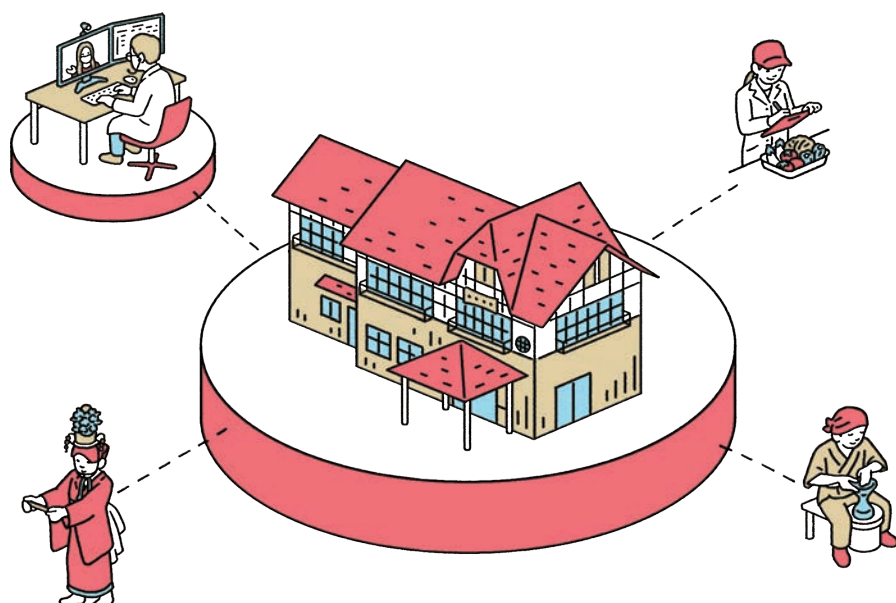
- 各種申請手続きも含めたデジタル化の推進
- ウェブ診療の検討
- オンラインサポートの推進 等

5 住民参加型事業の開拓・展開

取組み例

- 学びの場の提供
- 多様な人々と交流できる機会の充実 等

将来像
2



創る・繋がる・広がる まちづくり

人口減少や高齢化により人材も不足し、今までのやり方では対応できなくなることが想定されます。市内での連携をより密にし、他自治体と広く連携し進めていくことが必要です。また、それらに対応していくためには、行政だけでは困難です。住民サービスの充実を図るとともに、多様性を尊重しながら、一人ひとりが主役となって、住民だけでなく観光客や関係人口も参加できる事業を検討していきます。

将来像
2

施策の方向性

1 広域連携の推進（市内連携、他自治体との連携）

取組み例

- 円滑な業務推進
- 横断的な市内連携の推進と連携しやすい環境づくり
- 窓口のワンストップ化の推進
- 他自治体との連携 等

2 幅広い世代が参加できる事業の充実・開拓

取組み例

- 住民が主体的に参加できる事業の充実
- 観光客や関係人口も参加できる事業の開拓
- 獅子舞・お祭り等の郷土芸能の継承 等

3 コミュニティの形成・活性化

取組み例

- 自治会の活性化
- 団体活動への支援 等

4 多様性の尊重

取組み例

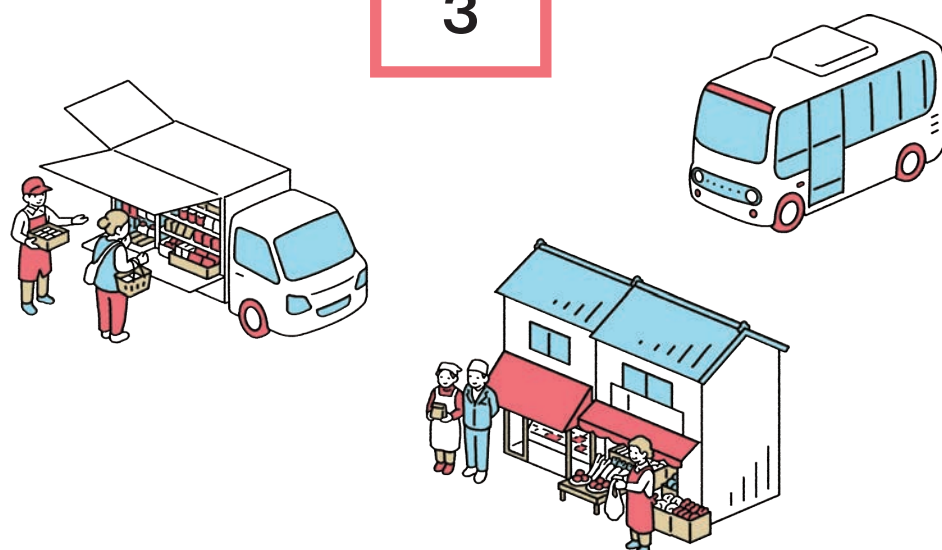
- 個性の尊重
- 男女共同参画や多文化共生の推進
- 外国籍、外国にルーツを持つ方への対応の充実
- ジェンダーや障害に捉われない意識の改革と対応の充実
- 自殺・引きこもり対策 等

5 住民サービスの充実

取組み例

- 福祉サービスの充実
- バリアフリー化の推進
- 健康増進事業の推進
- 食育推進事業の実施 等

将来像 3



賑わう・満ちる・巡る まちづくり

奥多摩町は街道沿いと駅周辺に商店が並んでいます。それらの歴史や豊かな自然など奥多摩町らしさを活かしながら、まちの活性化、観光資源の活用を図ります。

公共交通の利用促進や移動が困難な方への支援を検討していきます。関係人口の増加と併せ、移住・定住を推進していきます。買い物の場として、また、コミュニケーションの場として、移動販売などの拡充を検討します。観光ごみへの対応として、観光ごみステーションを設置するなど、観光による地域への負荷軽減についても検討します。

また、地域おこし協力隊や集落支援員の積極的な活用を進め、まちの活性化を図ります。

将来像 3

施策の方向性

1 まちの活性化

取組み例

- 地元商店との連携
- 駅前を中心としたにぎわいづくり
- アートやクリエイティブな活動との連携
- 地域おこし協力隊や集落支援員の積極的な活用 等

2 観光資源の活用

取組み例

- わさび・治助イモ・鹿肉等の特産物の活用
- 空き家・空き地を活用した観光駐車場の設置
- 内水面漁業や自然系アクティビティ等の推進 等

3 移住・定住促進

取組み例

- 移住・定住対策の促進
- 空き家バンクの活用
- 若者定住応援住宅・子育て応援住宅の整備
- 分譲地の整備 等

4 公共施設、交通機関の充実・利活用

取組み例

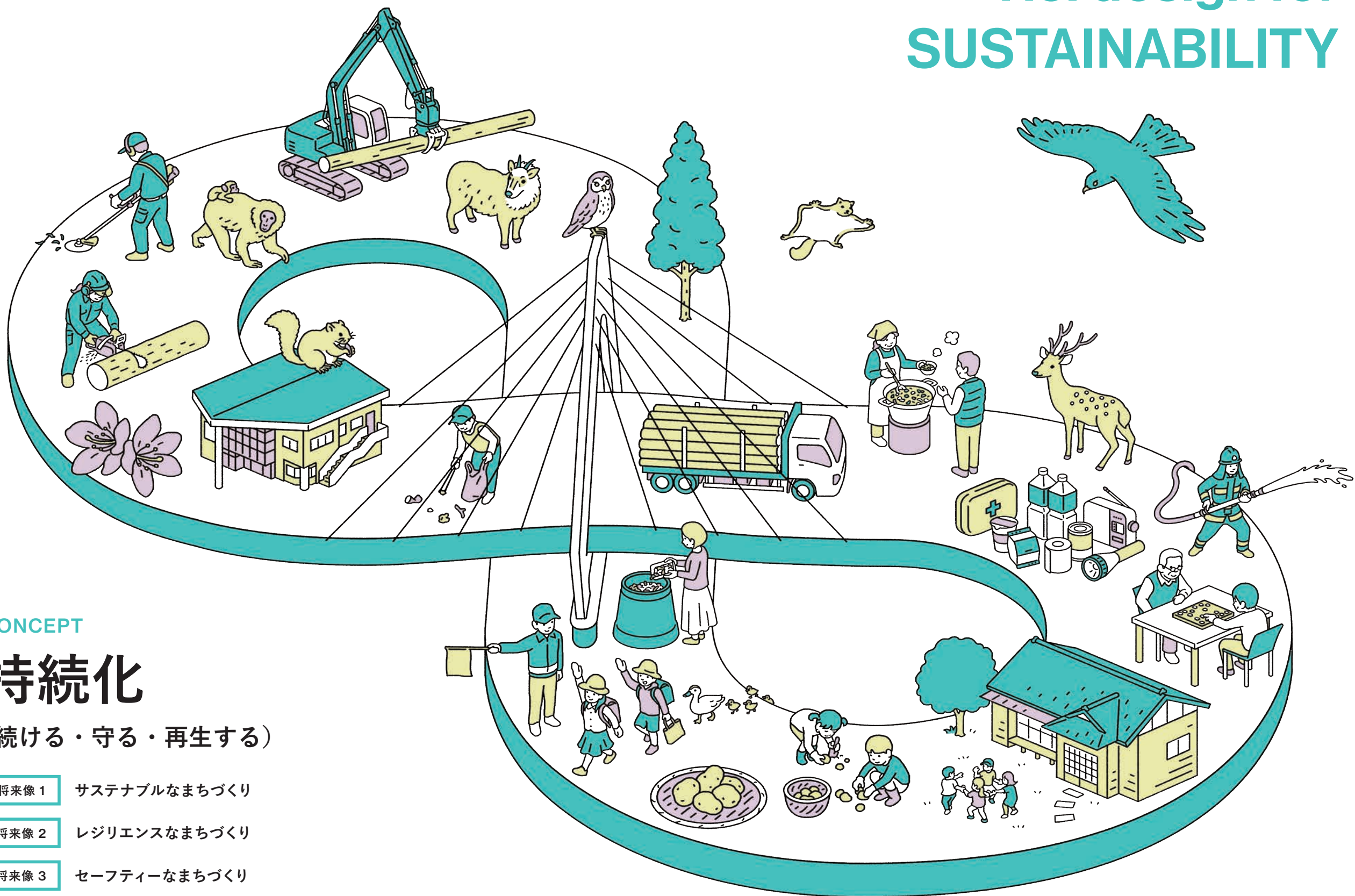
- 公共交通を利用する機会の促進
- 移動が困難な方への支援
- 公共施設の活用方法の検討 等

5 暮らしの満足度向上

取組み例

- 移動販売等の拡充検討
- 観光ごみステーションの設置検討
- 生涯学習の推進
- 憩いの場の充実 等

Re: design for SUSTAINABILITY



CONCEPT

持続化

(続ける・守る・再生する)

将来像 1 サステナブルなまちづくり

将来像 2 レジリエンスなまちづくり

将来像 3 セーフティーなまちづくり

将来像

1



サステナブルな まちづくり

奥多摩町の豊かな自然・資源にも限りがあります。これらの資源を維持・保全しながら、ごみの分別や削減等の環境負荷を減らす取り組みを行うなど、豊かな自然環境を次代へ引き継いでいきます。

次代を担うこどもたちが安心して地域で育つことができるよう見守りながら、誰もが学び続けることができるよう取り組みを検討していきます。資源も人も未来へつないでいけるようサステナブルなまちづくりを進めていきます。

サステナブルとは

「持続可能な」「維持できる」という意味で、環境や社会、経済などのあらゆる場面において、将来にわたって持続可能な状態を保つことを示します。

将来像
1

施策の方向性

1 資源を活かす・大切にするまちづくり

取り組み例

- 森林再生事業・木質資源の活用
- 空き家の活用・危険空き家対策
- 獣害対策や資源としての活用の検討
- 家庭ごみの削減に関する普及啓発
- 観光ごみの対策
- 休耕地活用の検討 等

2 子どもの成長を見守るまちづくり

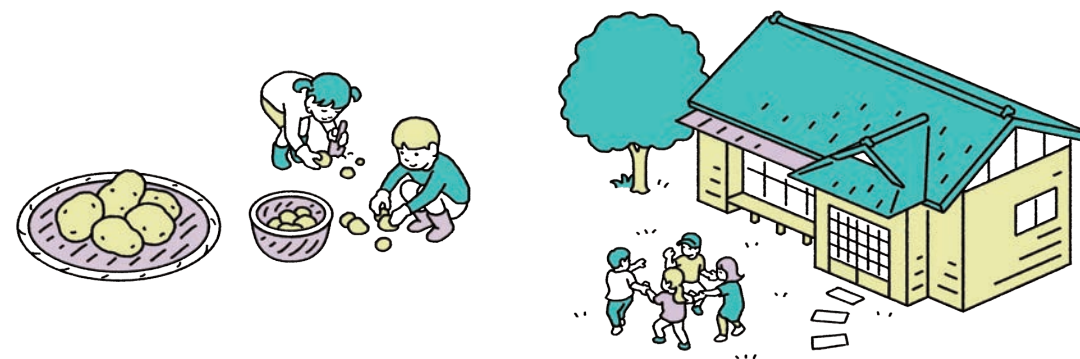
取り組み例

- 子育て環境の充実
- 奥多摩町ならではの体験学習など特色を活かした学校教育の充実
- 家庭、地域と学校との連携・協働
- 学びを支える学校環境の整備
- 町内外への効果的な情報発信の検討 等

3 誰もが学び続けるまちづくり

取り組み例

- 健康増進・健康指導・健診の充実
- 食育の推進
- 生涯学習の充実
- 世代を超えた学習の場や体験学習の整備
- 社会教育施設の利用促進
- 文化・芸術活動の推進 等



将来像 2



レジリエンスな まちづくり

奥多摩町は、急峻な地形に集落が点在しており、複数からのアクセスが難しい地域もあり、土砂崩れなどで道路等が寸断されると災害時に孤立する危険性があります。そのため、災害のリスクを少しでも減らし、災害に備えていくためにインフラの整備も重要です。高齢になって車の運転ができなくなっても、他の交通手段があることで安心して暮らしていくことができます。

交通インフラ及び公共インフラの整備を進め、災害時や時代の変化等に対応できるようレジリエンスなまちづくりを進めます。

将来像 2

施策の方向性

1 交通インフラの整備されたまちづくり

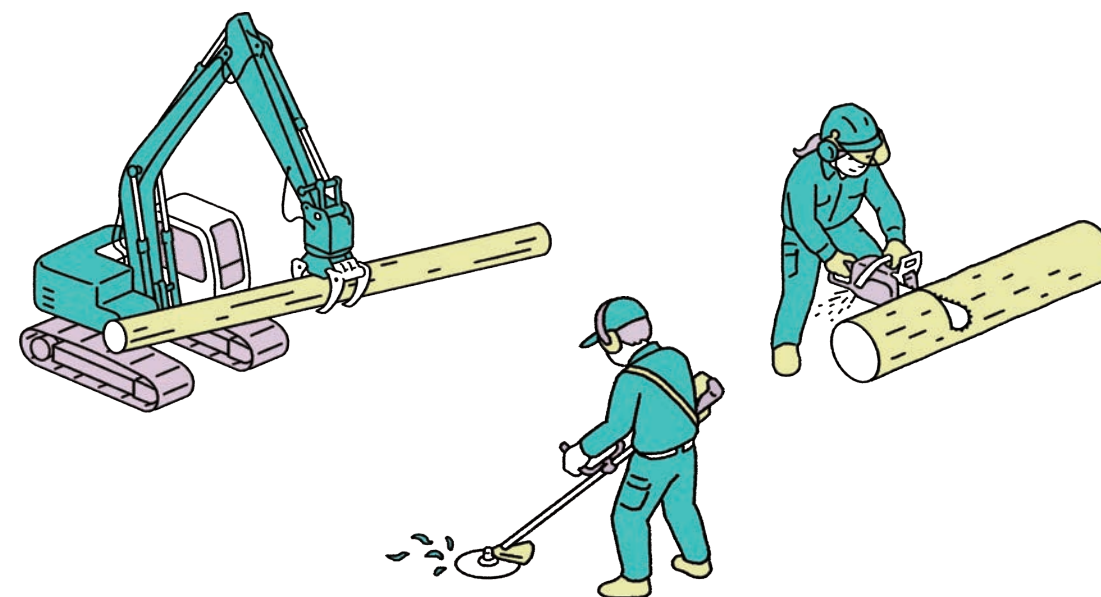
取組み例

- 町道・林道の維持補修
- 災害時緊急車両等が安全に通行できるよう道路整備及び耐震化
- 防犯灯の整備
- 自動運転交通の検討
- 町民同士で乗り合いの検討 等

2 公共インフラの整備されたまちづくり

取組み例

- 災害時に避難所となる公共施設の整備
- 町有施設等の改修、維持管理
- 地震や台風などの自然災害時の応援体制や広域連携の推進
- 公共下水道の維持管理及び耐震化 等



レジリエンスとは

一般的に、様々な危機からの「回復力、復元力、しなやかな強さ」を意味するとともに、ダメージを受けても、粘り強く以前よりもより良く立ち直る状態を表します。例えば、「自然環境がダメージを受けても、元に戻る力」や、身近な言葉では「困難に立ち向かう力」「雨降って地固まる」という言葉が当てはまります。

将来像
3



セーフティーな まちづくり

今後、災害が多くなると予想される中で、インフラの整備だけでなくソフト面での備えが大切であるため、防災意識の向上と防災力強化を図ります。

また、安全に暮らしていくために、犯罪や事故に巻き込まれないよう防犯意識の向上と防犯力強化を目指し、普及啓発を図ります。

将来像
3

施策の方向性

1 災害に負けないまちづくり

取り組み例

- 災害時における近隣自治体等との連携の強化
- 災害時情報連絡体制の強化
- 消防団員の加入促進・処遇改善、資機材の充実
- 地域での危険箇所の把握や防災訓練の実施
- 災害体験等の実施
- 備蓄の確保 等

2 犯罪・事故から人を守るまちづくり

取り組み例

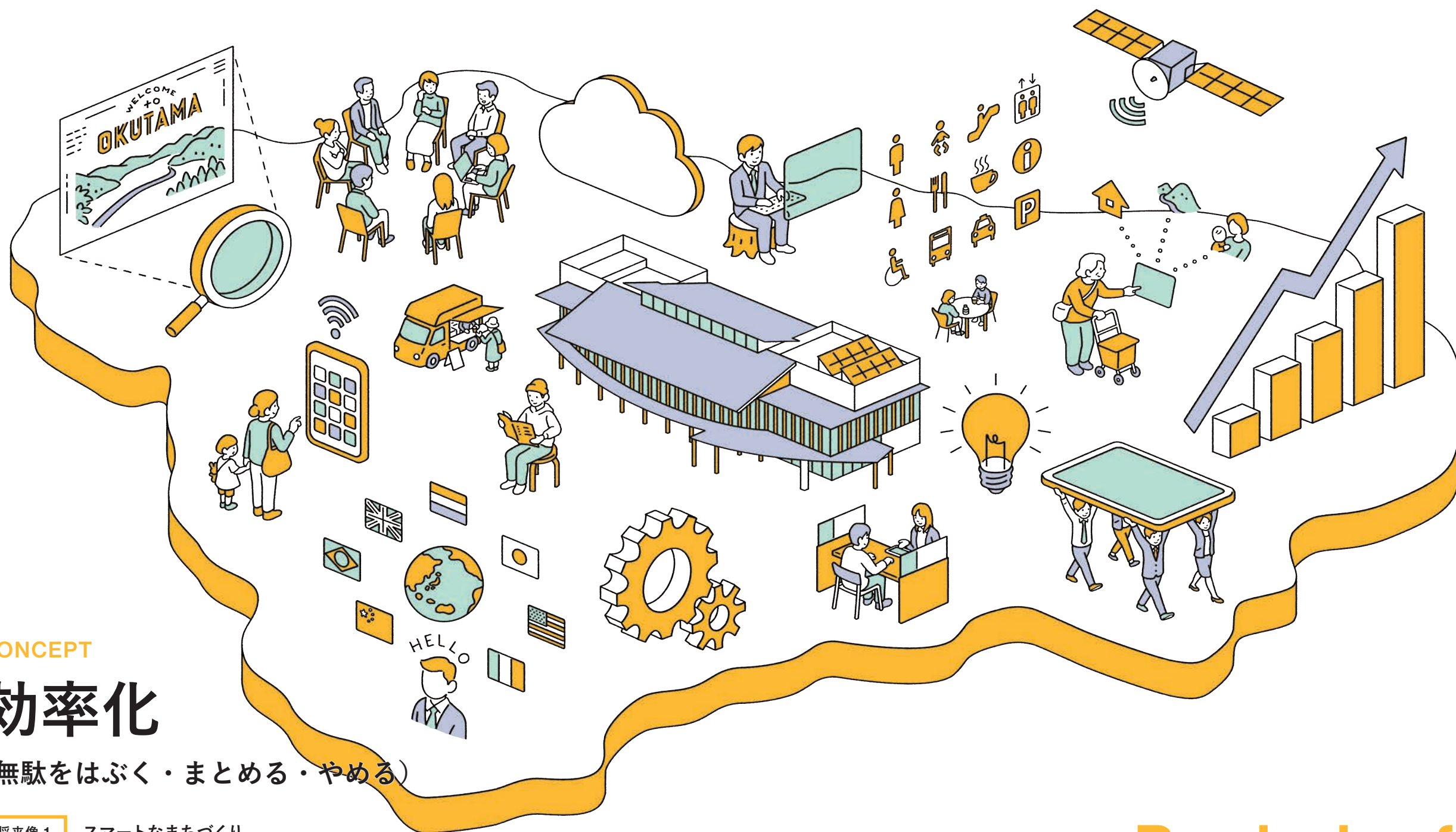
- 交通ルールの普及啓発
- 交通安全講習会の充実
- SNS・インターネットトラブル、情報モラルの普及啓発 等

3 安全・安心して日常生活を過ごせるまちづくり

取り組み例

- 地域での見守り活動の充実
- ICTなどを活用した見守りの充実
- 生活困窮者への経済的支援の継続
- 障害者地域生活支援事業等の充実
- 子どもが遊べる場の検討
- 認知症の人やその家族に対する支援の継続
- 地域医療の充実 等





CONCEPT

効率化

(無駄をはぶく・まとめる・やめる)

将来像 1 スマートなまちづくり

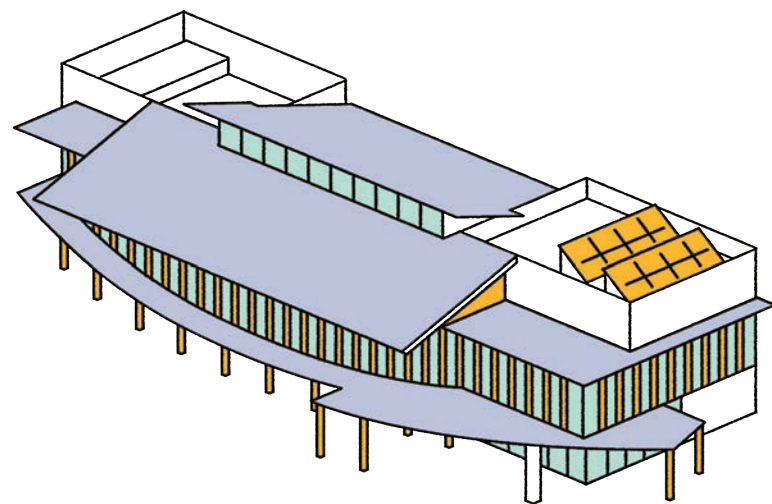
将来像 2 フラットなまちづくり

将来像 3 リンク／シェアするまちづくり

Re: design for STREAMLINING

将来像

1



スマートなまちづくり

人口減少、高齢化が進む中で、限られた予算、人材で複雑化する課題や目まぐるしく変化する時代に対して町として取り組んでいく必要があります。希望する事業をすべて行っていくことは困難です。町として取り組む優先順位をつけ、取捨選択をしながらまちづくりを進めていく必要があります。取捨選択するだけでなく、今までの業務や取り組みの効率化を図りながら進めていくことも重要です。行政サービスを支える庁内の効果的な組織運営や人材育成等、また、効果的な情報発信などを行っていくことが大切です。

暮らしの最適化を考えながら、分かりやすい、伝えやすいスマートなまちづくりを進めます。

将来像
1

施策の方向性

1 効果的な組織運営、人材配置・育成

取組み例

- ジョブローテーションの見直しや専門職員配置の検討
- 基礎研修等の実施による人材育成
- 効果的な職員配置の検討
- 事務手順等のマニュアル化による業務の円滑化 等

2 建物の取捨選択と活用の見直し

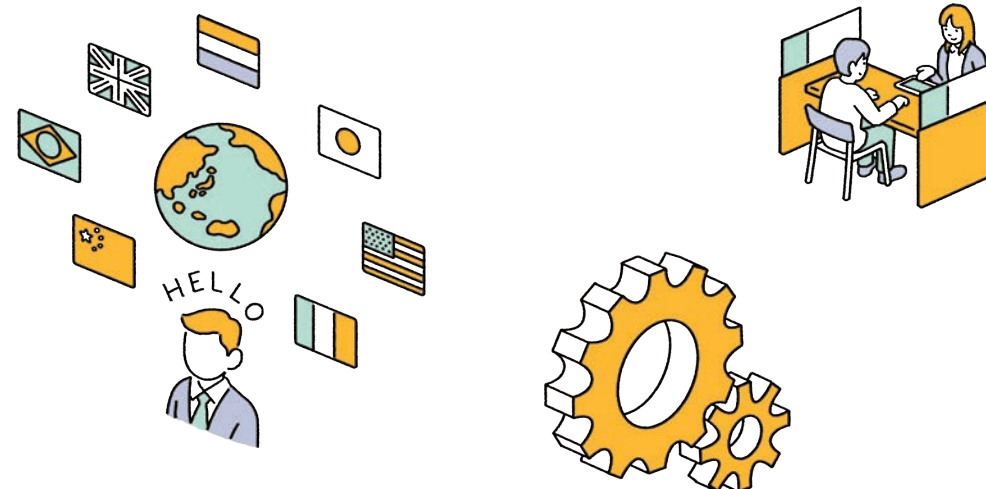
取組み例

- 既存施設の有効活用と必要に応じた施設の機能集約・複合化・縮小の検討
- 施設のオンラインネットワーク化など新たな手法の検討
- 空家等活用促進事業交付金の活用 等

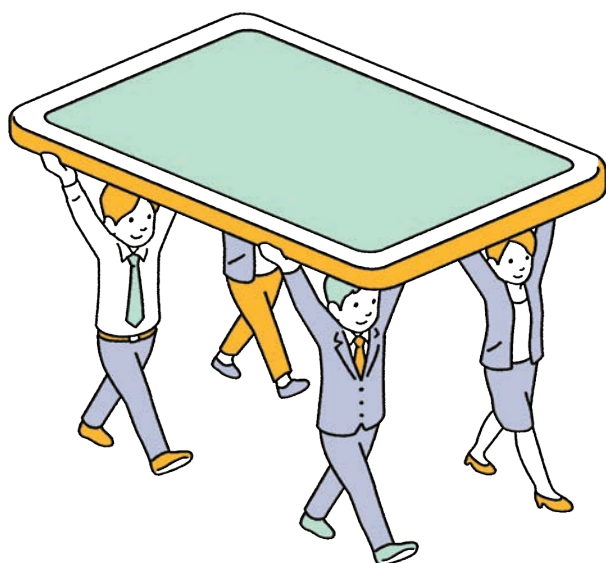
3 情報発信の改革

取組み例

- チャットボットの活用などによる行政情報のスムーズな取得促進
- 多言語化や音声認識付き機能の活用による情報発信の検討
- 住民同士の情報交換・交流ができるソールの検討
- 回覧板等のデジタル化の検討 等



将来像
2



フラットなまちづくり

コロナ禍を経て、オンラインでの会議や申請も一般的となりました。デジタル化を進めていくことで、窓口のワンストップ化や遠隔地とのオンライン接続など、地域格差解消や移動時間及び業務負担の軽減により、多様な働き方の実現、効率的な事業展開が可能になると考えられます。職員誰もが円滑に業務を行えるようマニュアルの作成やスペシャリストの育成などを行うことで、情報が集積され、質を保ちながら業務対応できるよう検討します。同じ目線でみんなと育むフラットなまちづくりを進めます。

将来像
2

施策の方向性

1 デジタル化などによる窓口業務の効率化の検討

取組み例

- マイナンバーカードの活用や窓口のワンストップ化
- 窓口での端末利用の推進 等

2 業務の遠隔化の検討

取組み例

- タブレット等を活用したオンライン相談などの検討
- 多様な働き方の検討 等

3 業務負担の平準化と質の維持

取組み例

- 質の高い行政サービスの提供を可能とするマニュアルの整備
- 組織体制の見直しによる業務負担の平準化
- 業務内容に応じたスペシャリストなどの育成検討 等

4 誰でも同様のサービスを受けられる体制づくり

取組み例

- 総合案内の設置の検討
- 申請窓口の一元化の検討
- ピクトグラムなどの標示の明確化による施設の利便性向上
- 多言語化ややさしい日本語、音声認識付き機能によるサービス案内の検討
- オンラインサービスの活用による事業などに参加しやすい体制づくり 等



将来像 3



リンク／シェアする まちづくり

職員間の情報共有や他自治体との連携により、効果的・効率的な業務運営を行っていきます。既存の情報を効果的に集約するとともに、魅力を再発見し、地域一体となった情報発信の検討を進めていきます。

また、住民同士が情報交換・交流できるツールなどを検討していきます。情報や知識をリンク／シェアするまちづくりを進めます。

将来像 3

施策の方向性

1 庁内の知識の共有や職員間の情報共有

取組み例

- 職員間の情報共有による効果的・効率的な業務運営 等

2 他自治体との連携強化

取組み例

- 既存の会議体との連携継続
- 自治体担当者同士の連携強化 等

3 町の魅力をシェアする

取組み例

- 町の魅力の共有と発信方法の検討
- インバウンドを含めた観光客や関係人口に向けた魅力発信 等

4 住民の意見をシェアする

取組み例

- 困りごとなどを共有する場の検討
- 住民同士が情報共有できるツールの検討 等

